

# 第13回日本学術振興会育志賞 受賞報告

## 谷口大輔

〈国立天文台 日本学術振興会特別研究員 (PD) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1〉

e-mail: d.taniguchi.astro@gmail.com



このたび、第13回（令和4（2022）年度）日本学術振興会育志賞（以下、育志賞）を賜る荣誉に預かりました。育志賞とは、上皇陛下の御下賜金をもとに博士課程学生を顕彰する賞で、毎年度全国から16名程度が受賞しています [1]。私は、「赤色超巨星の探求：時間変動、進化経路、そして天の川銀河研究への応用」というテーマで日本天文学会ならびに東京大学からご推薦頂きました。なお、日本天文学会からご推薦頂いた受賞者は私で4人目になります [2, 3]。

## 赤色超巨星の探求

私は博士課程を通じて、「赤色超巨星」をキーワードとして研究を進めてきました。まず赤色超巨星自身の研究として、気象衛星ひまわり8号を用いたベテルギウス大減光の観測（EUREKAの記事を参照 [4]）や、近赤外線高分散分光観測による有効温度や化学組成の決定法の開発を行ってきました。また、赤色超巨星を活用した研究として、天の川銀河内縁部の化学組成分布を赤色超巨星をトレーサーとして調べる研究も行ってきました。これらの、赤色超巨星という天体を一つの軸とした博士課程での研究を総合的に評価して頂いたのだと理解しています。

## 1年間にわたる選考と授賞式

育志賞の選考は（候補者の目線で見ると）大き

く3段階に分かれて行われました。まず最初に、所属機関（大学や学術団体）内部での選考です。日本天文学会などの学術団体は、毎年1名以下の博士課程学生を育志賞候補者として推薦することができます\*1。この段階から、日本学術振興会に提出するものと同じ申請書と推薦文2通を用意する必要がありますので、気合を入れて書類を準備しました。

幸いにも日本天文学会と東京大学からご推薦頂けることが決定した後に、全国の候補者合計166名に対する書面選考が日本学術振興会の学術システム研究センターにより行われました。

最後に、書面選考を通過した候補者に対するオンライン面接が11月に行われました。面接選考の日時は日本学術振興会側が決定するため、候補者側は日程を選択できません。このため、運が悪いことに、オーストラリア出張中にオンライン面接を行うことになりました\*2。面接の形式は、事前に研究内容をまとめた資料や動画を提出し、面接時間の大半を質疑応答に費やす、という珍しいものでした。質問内容は、研究テーマ全体や研究姿勢に関する質問から、申請書の片隅に一言だけ書いたことに関する質問にまで多岐にわたり、申請書を詳細に読み込んでくださった審査員の皆様には感謝の念が尽きませんでした。

選考過程はすべてオンラインで行われましたが、幸いにも、2023年3月の授賞式は来場者数を

\*1 第14回（2023年度）育志賞では、学術団体が推薦可能な人数が「2名まで（ただし推薦が男性のみの場合は1名まで）」 [1]に変更されたようです。

\*2 あるいは、オーストラリアの海岸沿いのホテルからZoom参加、というインパクトを審査員に与えられた可能性を考えれば、逆に運がよかったのかもかもしれません。



図1 育志賞授賞式・授与式の様子（上野の日本学士院会館にて）。

絞ったうえで上野の日本学士院会館にて対面で開催されました（図1）。授賞式ならびにその後の懇談会には秋篠宮皇嗣同妃両殿下にご臨席賜り、お祝いのお言葉や研究内容に関するご質問も賜りました。また授賞式の日に合わせて約1時間の待機時間があり、ほかの受賞者と研究生活にまつわる数多くの雑談<sup>\*3</sup>に興じることができました。

最後になりますが、本賞を受賞する名誉に預かれたのは、長きにわたりご指導頂いた松永典之先

生と小林尚人先生、推薦文をご執筆頂いた尾中敬先生、山崎和哉氏や宇野慎介氏や Mingjie Jian 氏を筆頭とした共同研究者の皆様のお力添えの賜物です。この場をお借りして篤く感謝の意を示します。

### 参考文献

- [1] <https://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/>（2023.06.07）
- [2] 信川正順, 2011, 天文月報, 104, 201
- [3] 白方光, 2019, 天文月報, 112, 492
- [4] 谷口大輔ほか, 2023, 天文月報, 116, 519

<sup>\*3</sup> 研究で苦労した点から研究室の愚痴、果てにはNature, Scienceに論文を通すノウハウまで。